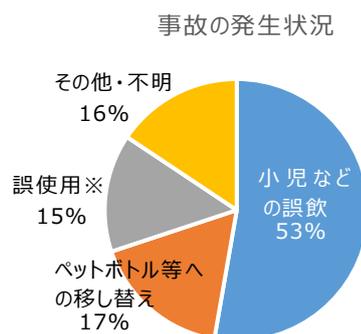
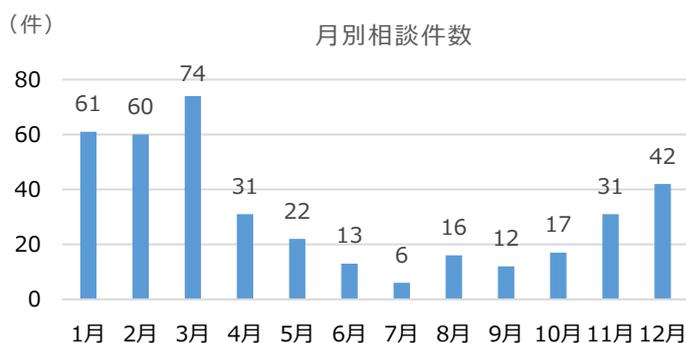


灯油の誤飲事故や取り扱いに注意しましょう！

寒くなると、石油ストーブやファンヒーターを使用する機会が増えます。日本中毒情報センター中毒110番では、11月頃から灯油に関する電話相談が増加し、1～3月頃にピークとなります。

灯油の不慮の事故（2019～2023年，n=385）



● 次のような相談があります。

「灯油ポンプの先を子どもがなめた。」

「ペットボトルに移し替えていた灯油を成人が飲み物と間違えて飲んだ。」

「室内で灯油をこぼしてしまい、臭いで気分が悪くなった。」

※ 移し替え時にポンプやホースを口で吸って誤飲した等



灯油は飲んだり吐いたりした時に気管に入りやすく、少量でも気管に入ってしまうと肺炎を起こす可能性があります。そのため、灯油を誤飲した場合、吐かせてはいけません。水分をたくさん飲むと嘔吐を誘発する可能性があるため、無理な水分摂取は避けましょう。

また、灯油は気化しにくく吸入による健康被害は起こりにくいですが、特異な臭気によって気分が悪くなることがあります。こぼれた場合はすぐに片付けて、必要に応じて換気を行いましょう。

● 事故防止のために以下の点に注意しましょう。

- ・ 灯油タンクや灯油ポンプは子どもが触らないところに置きましょう。
- ・ 灯油は消防法における「危険物」です。保管する際は灯油用の専用容器を使用し、ペットボトルなどの飲食物容器への移し替えは絶対にやめましょう。

● 以下のリンク先の情報も参考にしてください。

- ・ 日本中毒情報センター 中毒事故の問い合わせが多い家庭内の化学製品 灯油・ベンジン・ガソリン
<https://www.j-poison-ic.jp/general-public/response-to-a-poisoning-accident/chemical-products/#i-41>

事故が発生し、医療機関を受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■ 大阪中毒110番 072-727-2499 ■ つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。